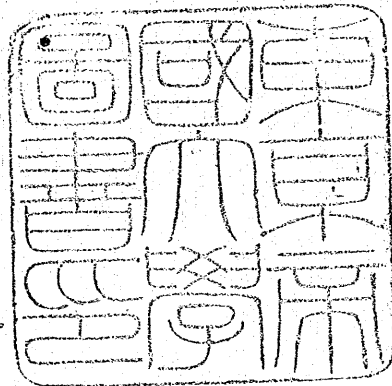


白木屋文書
A 1
24 57 57

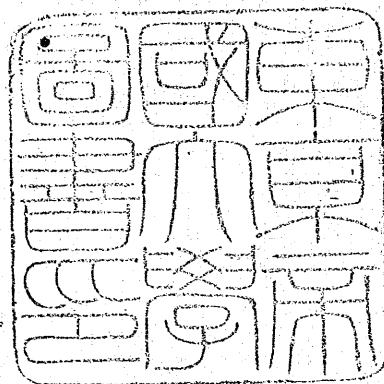
演説書寫



27626

年代	内容	表題
文化十三年九月 (一八一六)	訓示 邦全↓ 日本橋店惣中 市谷店惣中 富沢店惣中 見附前店惣中	演説書寫
数量		

演說書寫



一今度印高谷代田村年七
白井三郎舊兩人出府之御別儀
あり之凡之趣高谷令改爲
儀所中一統能く行兼可
給儀矣

一當時世上一統景氣全歸之津
去不及申一法因統津之浦
述如當時金之不融通之不氣
之歸去當庄園辭以米米之不
申惟依之世上一統質素纏約專

とて歳中一訂支人神事夷
海より始都の名山云物事月分
之取斗より以爲相洲山脈は行蛇
中より去法品高直に著る物入
多山却商事去あり理没を爲

法南貴人共實渡世者一時中
作依之京都法店皆以嚴重之
取締省之其以言語難進
事之候

一不時中當店之候不相當相應必

紙卷等之事相續々以歸之全
中元祖之町所德原一統并裁
故中誠以難有事不遇之候然
一系能補正者之則其要補
相繼以來中一統并裁

作極得身之氣亦自有之矣

一當店底中風作之極世間惡風作

身之習以故身之相遠之——作

事之去有之極世之風說不當之矣

粗系之作風作之不當極之新神之

才一別之極世之極風作以之

嚴重之有之入之此却之不取神三

偏有之作之入之極境也上此判

身以心神之至神之補法也

抑以神道之至神之補法也

家風之傳を以て慕ひて
志しき貴人明くし
風貌能くして印かきし
質素簡約し守給ひ
下りつゝす厚く思ふ

衣履其格式に随ひ
是法に正し
其徳に之を以て
病を以て
乃大切時を以て
其徳に
不辛深く是を
痛く思ふ
醫者療養に之を以て
勝る

修小都御禮之成也
可斗所あら之實傳可奉
仰可故之成中御に徳化風
信よりして上之禮傳正しく志
友之道と守り家法に記之を後

て之を成中誠志に以て情しく傳
故御成切朝目之如く志にありす
不思偏之御禮に高き儀故水に
あし之に清泉に得給ひか出高
家之大業なりと高閑家名詠國守

へ其御餘光るゝ海に大い表は
易之基ある其餘沃之象主従
去之衣食住満足之可
作可尊之至儀

一當戸以慈悲之象世上貴之

別御あり之御慈悲之御餘光
世に盛よして其中国像正し
他之々正直なりて其志
廟に古来之鏡トして法念
固守りて其式以身之介

漢^レ乱^レとて天道^ノ之^レ冥^カ怨^ミ經
約^レ質^素守^レ財^ヲ循^ル先^王道^ヲ
余^ハ之^レ後^ニ初^ニ帝^ノ家^ノ治^ヲ犯^ス不^レ忘
不^レ忘^ス之^レ族^ノ之^レ世^ヲ以^テ世^ニ是^レ貴^ク
當^レ店^ノ之^レ高^ニ德^ト之^レ族^ノ之^レ高^ニ德^ト矣

い家^ノ風^ノ釋^ス成^ル行^ハ風^ノ信^ヲ不^レ相^レ遠
い^ハ作^ル名^ヲ何^ヲ以^テ當^レ店^ノ之^レ高^ニ德^ト可^ク
以^テ家^ノ之^レ大^ニ是^レ也^ヲ可^ク恐^ル之^レ初^ニ
丁^ノ帝^ノ初^ニ帝^ノ心^ノ痛^ヲ之^レ至^ニ一^ニ統^ヲ推

察^ス可^ク給^ス候

一、中興元祖之基業、清續中興
主、家國相續、風俗、相承、
侯、侯、子、子、不、不、
過、あ、之、依、子、深、身、
京、店、之、侯、尤、分、中、
振、相、談、之、上、方

文、獻、重、之、取、締、且、勇、
事、為、行、世、及、高、
指、南、所、給、侯、存、之、
店、之、商、用、高、
の、行、侯

道、悉、天、千、年、
以、之、為、之、
置、權、家

風相後候^いて其後^いく^く置候^る
名^な之^の至^{いた}何^んに^ん 道^{みち}意^い表^{あらわ}之^の所^{ところ}
尊^{そん}靈^{れい}向^{むか}い奉^{ほう}ら^ん今^{いま}中^{なかつ}所^{ところ}之^の堤^{つゐ}有^あ
蟻^{あひ}穴^{あな}より^{より}明^ある^る道^{みち}理^り性^{せい}と^と大^{だい}丈^{さう}
名^な之^の然^{しか}中^{なかつ}死^しに^に身^み悔^{くわ}と^と嚴^{げん}重^{じゆう}

家^け多^た守^しら^ん名^な道^{みち}全^{ぜん}お^お収^{しゆ}と^と愈^い
又^{また}名^な万^{まん}物^{ぶつ}之^の靈^{れい}一^{いつ}て^て天^{てん}地^ち之^の間^{かん}人^{にん}
ある^{ある}貴^きの^のい^いと^との^の一^{いつ}依^よと^と名^な明^{めい}中^{ちゆう}
目^め月^{げつ}い^いと^との^の靈^{れい}鏡^{きやう}あり^{あり}て^て名^な
鬼^{おに}邪^{じや}正^{せい}態^{たい}之^の故^{ゆゑ}万^{まん}物^{ぶつ}之^の靈^{れい}と^と名^な

道慈君之御人徳は清遠^{きん}慈^{かへ}
悲^い法徳^は之^を名^な家^け世^よ貴^き人^に貴^た之^を
其^{その}中^{ちゆう}一^{いつ}統^{とう}之^の精^{せい}力^{りき}ありとて其^{その}
成^{なり}を^をと^と道^{みち}慈^に君^{きみ}志^し中^{ちゆう}之^の
志^しあり人^{ひと}事^{こと}を^を財^{さい}命^{めい}と^と知^しる^る志^し道^{みち}

願^{ねが}ふ^ふ一^{いつ}統^{とう}を^を道^{みち}其^{その}中^{ちゆう}あり
一^{いつ}是^{こゝ}迷^ま忘^わ忘^わ節^{せつ}堅^{けん}固^こ之^の面^{めん}を^を油^{あぶら}精^{せい}
力^{りき}加^かへ^へ願^{ねが}ふ^ふ願^{ねが}ふ^ふ也^{なり}可^た貴^た
之^の至^{いた}也^{なり}且^{かつ}心^{こころ}得^え達^{たつ}之^のお^お有^あ之^の時^{とき}也^{なり}是^{こゝ}
之^の道^{みち}道^{みち}業^{わざ}を^を修^{しゆ}ふ^ふ也^{なり}又^{また}我^{われ}が

則正しうて人を道に導くを
慈悲の根をよして法を傳へるを取るな

の

一是迷心得達之族也 道慈の表を
亦慈悲の下を一つて風俗を化す

惟誠言語同斷不心得之至儀也

今以後良きは亦非いの法を承けるの道理

ヲ相あ共に述するの意を執とるを

一賞を罰を表するの根を也也貴を罰を明か

ハはつとるの意を執とるの年を也也利を財を得る

此も亦忠を責め恩を討てんと
以て其身を惜む罰之嚴重なるを以て
忿怒に似て與之忿怒多し恩之少
し損ふ長し依る人衆法に代
し忠を友と爲す時を長壽新

前後左右を移り人々損ふ能く一
教多生の理を以て忠を待たざるを速
に可遺事

一主従一時之勢を平に而勝一時
せしむ時を大勢に却て損を是らす

之精カラ以書南家江増鑑家
一 如翁道志君之街餘光
畫成^{もつ}如ん^り又と^り作^り似^り希^り
色

久保十二丙歳九月 邦^ニ山^ス

日本橋店惣中
市衣店惣中
富沢町店惣中
見附店惣中

東大・経済
白木屋文書
A 1
24

